

教組米沢

2020年度 第20号
2月22日発行

米沢市教職員組合

米沢市門東町 2-3-27
米沢教育と文化の会館
TEL (0238) 23-1542
FAX (0238) 23-1560
https://yonezawa-tu.jp/
Mail: ytuandztu@lemon.plala.or.jp

コロナ禍から子どもと学校を守る！ ～山教組が県教委と交渉～



山形県庁で行われた
県教委交渉

山教組は十一月二十五日と十二月八日に県教委とコロナ対応について交渉を行いました。今回は感染拡大防止のため、執行委員のみの参加で時間を制限しての交渉となりましたが、アンケートや分会長会で集約した職場の実態を浮き彫りにしながら、交渉が行なわれました。

県教委 「定数改善が必要。地域一斉の休校は行わない」

【組 合】コロナ禍で、改めて少人数学級が必要との声が大きくなっている。

【県教委】 県教委としても定数改善は必要との考えである。県も独自で文科省を訪問し提案を行っている。

【組 合】 昨年の一斉休校で学校は大混乱だった。今後感染が拡大した場合ほどのように対応するか。

【県教委】 文科省からも新たな指針が出され、「地域の一斉休校はせず、必要な場合に保健所と協議し休業する」とされた。県もこれに沿って対応する。分散登校や時差登校も、取るべき対応ではないと考えている。

県教委「多人数単学級の解消に取り組む」

【組 合】 現在全県で83学級も多人数単学級があり、三千人以上の子どもたちが過密な状況に置かれている。郡部の教育関係者からは、都市部の子どもばかり少人数学級の恩恵を受けているのは差別ではないか、との声まで上がっている。

【県教委】 コロナ禍のなか、多人数単学級で苦勞しているという話を聞いている。多人数単学級の解消に努めていきたいが予算も必要なので、来年度からのさんさんプラン再構築会議の中で進めていきたい。

【組 合】 スクサポ・学習指導員の任用が遅れ、未だに配置されない学校もある。

【県教委】 国からの内示が三月末だったこと、障がい者の雇用枠をハローワークで求人したことなどで配置に時間がかかった。人手不足で現在でも約七割の配置にとどまっている。

【組 合】 産代・病代なども、いつまでも配置されない学校が増えている。

【県教委】 六十歳以上の方にもお声がけし、引き続き努力している。

**初任研の日数大幅減
校外研 17日↓11日**

【組 合】 コロナ対応は今後も続く。これを機に学校を離れる出張・研修を削減すべきだ。

【県教委】 初任者研修について、今年度から校外研修を17日から11日に減じた。課業日の研修は13日から7日に減じ、うち5日は午後からとした。また校内研修について、初年度は60時間減とし、その分を2・3年次にそれぞれ30時間行うとした。

【組 合】 全国学テが中止なのにアクションプラン提出を求めたのはなぜか。

【県教委】 新学習指導要領が小学校で全面实施となり、育成すべき資質・能力を見定めるためだ。

【組 合】 県学テも中止になった。何も支障はなかった。全国学テと何が異なるのか。

【県教委】 県学テは、県で進めている探求型学習の成果を検証する指標である。全国学テと県学テの方向性は同じととらえている。

【組 合】 方向性が同じなら廃止してもよい。全国でも県独自のテストを廃止する県が増えている。

類想類句

昨年の「今年の漢字」は「密」。二位は「禍」三位は「病」と世相を反映した漢字でしたが、ベネッセが行った「小学生が選ぶ今年の漢字」とその理由を見て、改めて考えさせられました。

1位「笑」 「コロナでも笑顔でがんばれた」「家にいる時間が多く、家族といっぱい笑った」

2位「幸」 「学校に行ける幸せを感じた」「家族と過ごすことが幸せだと感じた」

3位「新」 「コロナの中で新しい楽しみを見つけた」
コロナ禍でも前向きな子どもの姿が見えてきます。

コロナに振り回された今年度もまもなく終わります。私たちは、「学校に行けることが幸せ」と子どもたちが感じる学校づくりができたでしょうか。休校後の子どもたちを迎える環境づくり、遅れた入学式の精一杯の準備、授業の遅れを取り戻すための授業と教材の工夫、毎日の消毒など、私たちも一生懸命がんばったこの一年でした。そんな思いをみんなが共有しながら、また新年度に向けて取り組みを進めたいものです。

(書記長)

「小・中学校共に 『自校方式』が最も望ましい」

昨年六月から今後の学校給食のあり方について検討してきた米沢市学校給食検討委員会は、このほど報告書をまとめ市教委に提出しました。

給食センター化に議論を誘導？

検討委員会は毎回公開で行われましたが、自校方式をやめて給食センターにする結論になるよう、市教委が議論を誘導しているのではないかと、この疑念が傍聴者から寄せられ、その後、市議会議員や市民が毎回傍聴に訪れるようになりました。また、元調理師さんや女性団体の方々と共同代表に「米沢の学校給食をよりよくする会」が発足し、わずか1か月で、自校給食維持を訴える二千六百筆を超える署名を集約し、市教委に提出しました。



今後は、報告書をもとに市教委が最終的な方針を決定することになります。検討委員会の報告や署名の重みを無視することはできません。まず統合される中学校への給食調理設備の設置について、早急に検討することが求められます。

中学校にも給食調理室の設置を

望ましい」とはなっているものの、現在の給食の問題点が多く列挙され、給食センター化の検討も促すような内容になっています

市教組HPに全文を掲載しています

米沢市学校給食検討委員会報告書の内容

- 1 はじめに
- 2 本市学校給食のあり方について～学校給食で大事にして欲しいこと
 - (1)安全安心を最優先 (2)食に関する指導の充実 (3)食物アレルギー対応
 - (4)きめ細やかな対応 (5)施設設備の整備 (6)その他、労働環境
- 3 本市学校給食の課題
 - (1)施設設備 (2)運営
- 4 本市学校給食の実施方法について

…… 本市学校給食のあり方として ①小・中学校共に自校方式が最も望ましい
②自校方式ができない場合においては、親子方式の継続や給食センター方式も検討する。なお、その際には、全校を同じ方式とするのではなく、最適な方法を組み合わせることもあり得る。



火災共済は“雪害”にも給付されます

～全教共済加入のみなさんへ～



例年にない豪雪と寒波が続く、出勤前の雪片付けも大変な毎日ですね。

全教共済の火災共済は、雪害などの自然災害も給付の対象です。例えば、雪による家屋の全半壊はもちろん、軒（のき）の部分破損、住宅に付属する塀などの被害などにも給付されます。

【申請に必要な書類】

- ①給付申請書 ②り災証明書 ③被災状況見取り図
- ①～③は市教組HPからダウンロードできます
- ④写真 ⑤修理業者の見積書または領収証

災害が発生したときは、応急措置をする前に、まず写真を撮っておいてください。

※ 市教組のHPから、申請の説明もダウンロードできます。一度確認してみてください。

